

光と影

認定こども園せいび はなぐみ（2歳児）杉坂 優菜

テーマとした理由や背景

「ゆらゆらおばけ」と名前がついた影。夏に天井を見上げた時、1階でしていたプールの水面が天井に写っていたことから始まり、それからは何かが影となって動いているのを見つけると「ゆらゆらおばけだ」と教えてくれるようになったことから光と影の不思議さを探究していきたいと思った。



影みーつけた！

「影ってなに？」

「外は明るいのに影が写らない時があるのはなんで？」

「こっちは冷たいね（日陰）、ここはあったかい！なんで？」（砂場にて）

ゆらゆらおばけだー！

「影って黒だけなの？」



【②問いを考える】

「影ってなに？」 「外は明るいのに影が写らない時があるのはなんで？」 などといった子どもたちと考えていきたい疑問からはじめ、子どもたちが気付いていけるように活動内容を考える。また、その中で子どもたちからの疑問や気づきを聞き逃さずに次の活動に繋がられるよう問いとして設定する。

【③環境の設定】

環境設定として、まず「影」とはどのようなものなのかを身近なことで知る。戸外に出て、遊びの中で自分の影や友だちの影に気付けるような環境を整える。虫メガネにカラーセロファンを貼り影絵遊びをするために、製作ができる環境を整えていく。

【④準備した素材】

サンキャッチャー、色水が入ったペットボトルやカラーセロハン、カラーセロハンで作る虫眼鏡のために黒の画用紙など、その都度の活動内容に合わせ用意する。

活動スケジュール

9月 現れた！ゆらゆらおばけ	1月 日陰と影の違いって？
10月～11月 何度も現れるゆらゆらおばけ どこからきてるんだろう	2月 影遊び (影鬼、影踏み)
12月 影ってなに！？	3月 影に色付け

ゆらゆらおばけの
誕生!!!!

活動 1

「なんのおばけだ!？」なんて言いながら子どもたちの場所へと駆けつけると、かぜグループが使っているプールの水面を反射した光が、はなぐみの天井に映っていた。

レースカーテンは閉まっているので、下を覗かなければ反射していることにはきっと気づかないだろう。それよりも、果たして子どもたちは「反射」という現象をわかっているのだろうか。

次の日……

先生ー！
ゆらゆらおばけ！

すぐ近くの黒い日除けネットに反射していたので、子どもたちは「ゆらゆらおばけ」の正体は何となくわかったのではないかと感じた。プールの水面を手で揺らし、その度に水面と日除けネットを交互に見合て確認している姿があったからだ。



子どもたちが自ら発見していくことが驚きや喜びに繋がっていくこと、そしてその感動こそが大事なのだと感じたのだった。お部屋で発見した時に、「下の水が反射しているんじゃないかな」なんて伝えなくてよかった。



お散歩前-園庭にて-

影ってなに!?

活動2



影って知ってる?
先生の影ここだよ!ここ!

影ってなに?どれ?

影の正体を知らないため、保育者を見上げる子どもたち。なかなか見つけれない様子

(動きを大きくしながら)
みてみて!やっほー!
下に先生のもう
一個の手見える?

なんとか影という存在に気付くことができた子どもたち

捕まえてごらん!

あったあった!

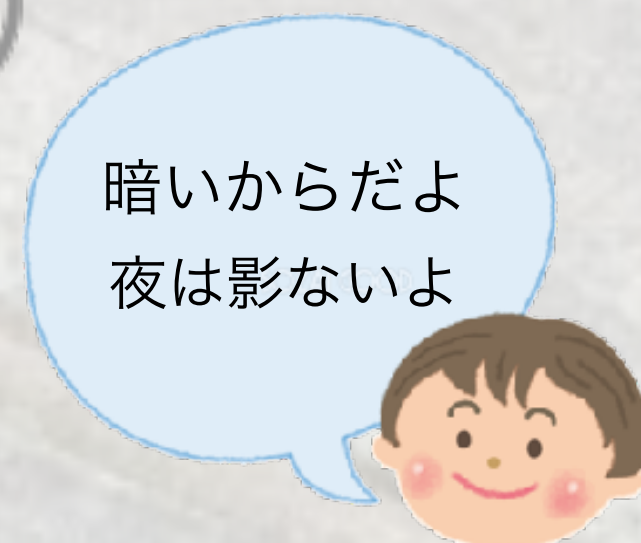
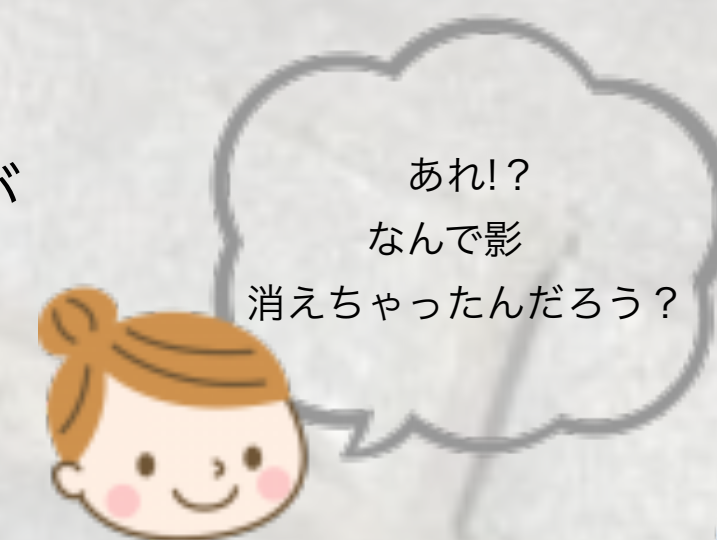
保育者が身体を左右に動してみると
足や手を使いないながら追いかける子どもたちの姿

影遊び

活動 2 part2

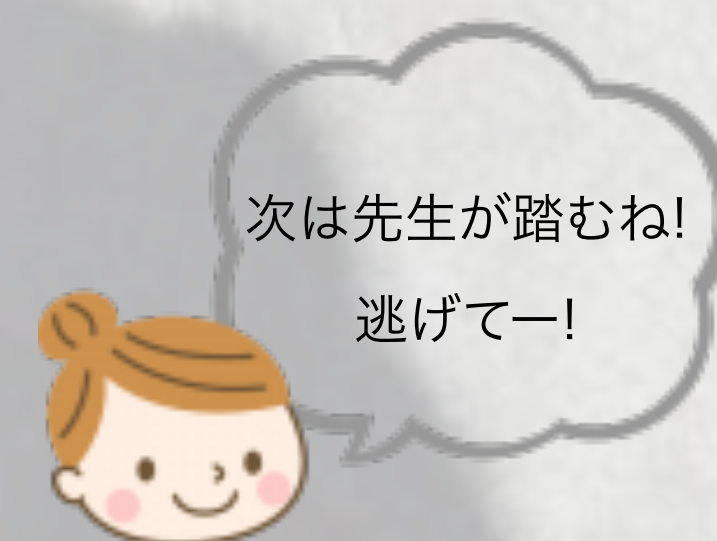
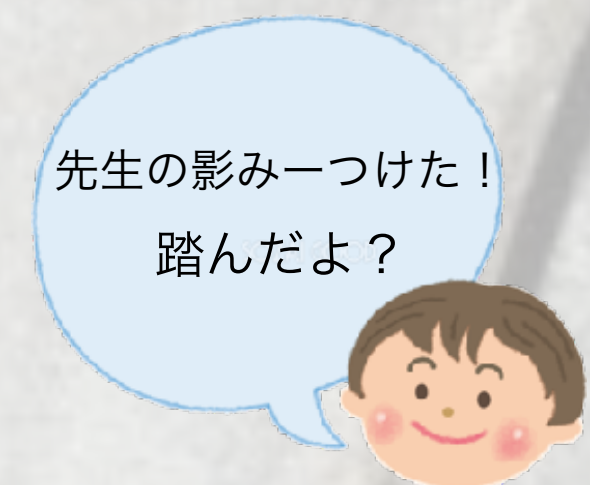
影の正体を知った日-向かう途中-

日陰になっている場所では影が
消えてしまう…



ついさっきまで影の存在に気づいていなかった
はずなのにもうその存在に気付いていた

-お散歩先の公園にて-



シンプルな鬼ごっこよりも難しい影おに
影が自分の後ろにいつてしまったり、身体の向きを変えると前に現れたり。
段々と影の仕組みを知っていく子どもたちでした

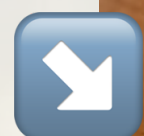


-ゆらゆらおばけが誕生した夏から約半年後-

~色々な光から~

活動3

お散歩メンバーを決めるために
置いていたホワイトボード



これまでは、太陽の光による影を見つけて、それを踏んだり追いかけたり。この日はまた違った形で影の存在を感じる事となった。太陽の光だけでなく、電気の光でも反射は起こることを知った。

この日は保育者の腕時計が反射し、ゆらゆらおばけがやってきた。玩具として使っている手鏡でも反射するのではないかと、保育者が手に取るとそれを見た子どもたちが真似ながらゆらゆらおばけを誕生させ始める。



おばけが登場する角度を調整することは難しいが、それでも一度出てきたおばけを逃さないようにと、鏡の傾きを固定する。すると段々とその角度がわかってきたようだ。

~色々な光から~

活動 3 part2

先生ー！
ゆいちゃんが写ってるー！

電柱と木が水溜まりに反射してるよ！



鏡を使って反射の仕組みを知った子どもたち

その日から水面に反射している自分たちの人影や木などにも気づき始めました。

「なんで写ってるんだろう」といった自然現象の不思議さを子どもたち同士で共有し合っていたのです。

影って黒だけなの？

影って
黒しかないの？

確かに影おにとかする
時も影って黒だよね
影に色つけてみよっか！



クリアファイルを使い、絵を描くのに使ったのは油性ペン。よく太陽の光が当たるはなぐみの保育室に飾ったら、色のついた透過光が床を照らすのではと予想して、子どもたちに提案をしたのだった。

晴天となった翌日。それぞれが作ったてんとう虫を手にとると、様々な色のてんとう虫が床に現れたのだった。どうしたら床にてんとうむしが現れるのかを、体の向きを調整しながら試行錯誤。その探究する姿に、光と影の関係を経験的にわかり始めていることを感じた。



影に色をつけてみよう！

全部合わせたらどうなるかな

ーカラーセロファンを使って虫眼鏡を製作ー



「あ！影が青になった！」「こっちは黄色になったー！」と色のついた影に夢中な子どもたち。赤、青、黄色の3色を製作したのだが、一人の男児が「3つ持ったらどうなるの」と疑問を抱いたので3つ重ねてみることに。なんと、影は黒に戻ってしまった。「じゃー黄色と青だけで持ってみる」と隣にいた男児。若干だが緑に見えた影。「緑になったよ！」と子どもたち。影遊びと共に混色遊びもしたのであった。

光と影

—振り返り—

3月

ここに逃げれば捕まらない！



ここは冷たいお砂だね

戸外では、自分や友だちの影を見つけて影鬼をしたり、テラスにある滑り台の影を見ておばけごっこが始まったり、メダカの水槽を覗くと、自分たちの人影が反射して見えることにも気づく子どもたち。大人が見つけられないような影も発見しながら、この一年間、影をテーマにたくさん遊んできた。

初めは影という存在を知らなかった子どもたち。

影おにから始め、影の仕組みを知っていく姿。

「影って黒だけなの？」「暗いところだとなくなるの？」「日陰のこの砂は冷たいね」など、光と影の不思議にたくさん出会ってきた。

そして影の仕組みを知った子どもたちの現在は、影おにで捕まらない場所を見つけた。それは、日陰。影おにを始めた当初は、踏まれないようにと、逃げることに夢中な姿があったが、今では滑り台の影に隠れれば自分の人影が隠れることを知り、そこが逃げ場となり影おにを楽しんでいる。

他にも、夕方になれば段々と影が薄くなってくること。外の明るさや太陽の光についても探究し始めようとしている。対象年齢を変えて引き続き「光と影」を探究していきたい。